

社会活動報告書

[活動期間 2020.1.1—12.31]



SHIMANO

100th ANNIVERSARY
1921-2021

新しいシマノロゴタイプについて

創業100周年を迎えた2021年3月21日、シマノのブランドロゴタイプをリニューアルいたしました。私たちの使命「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」をコミュニケーションシンボルとして象徴化・視覚化したトリコロールライン（3色ライン）とシマノロゴタイプを組み合わせたロゴを、シマノコーポレートブランドロゴと位置づけました。

トリコロールラインは、大自然そのものを象徴しています。上から、ライトグリーンは大地を、ブルーは空を、そしてディープブルーは海を表し、私たちの事業領域や目指している世界観をこの色にこめています。

また、従来のシマノロゴタイプは、シマノプロダクトブランドロゴとして、シマノのビジネス活動の中で使用してまいります。

シマノコーポレートブランドロゴ



シマノプロダクトブランドロゴ



人と自然のふれあいの中で、 新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。

シマノは上記の使命に則り、長年にわたってお客様にこころ躍る製品をお届けするとともに、それらをご愛用いただく場や機会をご提供し、健康的なライフスタイルを提案してまいりました。自然をフィールドとして事業を展開する私どもは、美しく良好な地球環境、人々の安全・安心な生活、そして心身の健康を何よりも大切に思っています。これからも一企業市民としてよりよい世界を目指す国際目標「SDGs（持続可能な開発目標）」に取り組み、目標実現の一翼を担えるよう、積極的な活動を続けてまいります。

SDGs — 世界を変えるための17の目標



新しいシマノロゴタイプについて 02

コーポレートミッション 03

社会活動報告書 発刊にあたって 05

企業価値の向上を目指して 06

- こころ躍る製品を
シマノを支える人づくり
- コンプライアンス促進への取り組み
- 感染症拡大防止
- サイバーウイルス対策
- DX (デジタルトランスフォーメーション)
- 安全・品質の強化
- 自転車通勤推奨活動
- 自転車・釣りの啓蒙活動

よろこびの高揚 18

- 新しい自転車文化・釣り文化の創造を目指して
- レース・イベントの主催・協賛

利用環境の改善と保全 32

- シマノ・トリコロール・プロジェクト
- 身近な環境に対する取り組み
- シマノグリーンプラン

信頼の構築 40

- 安全で楽しい自転車利用を目指して
- 子どもたちの教育支援
- 寄付活動
- 企業市民として

社会活動報告書を読んで 42

チームシマノ社会活動方針/会社概要 43

社会活動報告書 発刊にあたって



2020年は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界中の人々がはからずも経済活動と日常生活の大混乱を同時に体験することとなりました。

人と人、国と国の交流が遮断され、私たち一人ひとりの価値観や働き方も変化を余儀なくされ、オンラインビジネスやリモートワークなどが一気に進みました。

新しい生活様式に合わせて、人々が心身の健康や安寧のあり方を模索する今、自然の中で楽しめる自転車や釣りは、これまで以上に注目を集めています。

「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」この使命に忠実に、当社は先進技術を駆使し、環境に配慮したものづくりに徹することで、微力ながら社会のお役に立ちたいと考えております。

お蔭さまで、当社は2021年3月に創業100周年を迎えました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

奇しくもこの節目は、世界の大きな転換期と時を同じくすることとなりました。今後も1世紀にわたって培ってきた当社のものでづくりの精神を胸に、社会の変化に即応し、新しい自転車文化・釣り文化の創造に取り組んでまいります。

日本発の開発型デジタル製造業として、次なる100年も持続可能な「価値創造企業」であり続けられるよう、たゆまず努力を重ねてまいります。

この報告書が私どもをご理解いただく一助となれば幸いです。

株式会社シマノ
代表取締役社長
島野 容三

企業価値の 向上を目指して

〈自転車部品事業〉

■ E-バイクシステムコンポーネッツ 「EP8」シリーズ

E-MTB用新コンポーネッツ「EP8」は、従来製品を超える軽量化と出力パワーの向上を両立。さらに従来の自転車に近い軽快なペダリングや、状況に応じた理想的なアシスト率を実現し、よりE-バイクとの一体感が高まる乗り味となっています。また新機能「E-TUBE PROJECT」アプリにより、走り方のカスタマイズの幅も大きく広がっています。



EP8シリーズ

■ マウンテンバイク(MTB)用コンポーネッツ 「SHIMANO DEORE」M6100/5100/4100シリーズ

初心者から上級者まで、幅広くご使用いただいている「SHIMANO DEORE」シリーズ。ユーザー様の嗜好に合わせてお選びいただけるよう、従来の後変速10速に加え、新たに11速/12速もラインアップに加わりました。安定性の高いドライブトレインやシフティング性能などの上位グレードの機能を受け継ぎ、過酷なライドにおける信頼性を提供します。



SHIMANO DEORE M6100シリーズ

■ ライフスタイル ギア製品 「S-PHYRE」ロードレーシングシューズ/ LAZERヘルメット「VOLANTE」

シマノのレーシングシューズのフラッグシップシリーズ「S-PHYRE」RC9（ロードレース用モデル）がモデルチェンジを果たしました。2種類の素材を組み合わせることで、ライダーの踏力をより効率よくペダルに伝達します。また、ヘルメットブランドLAZERからは、空気抵抗の低減に対する長年の研究の成果を惜しみなく投入した「VOLANTE」を発売。2020年のツール・ド・フランスのタイムトライアルステージでは早速、世界のトップ選手の走りを支えました。



LAZERヘルメット VOLANTE

S-PHYRE
ロードレーシングシューズ
RC9



こころ躍る製品を

当社の事業活動の基本は、「こころ躍る製品」を社会に提供することです。使いやすく快適に走行できる自転車部品、テクノロジーと感性が融合した釣具はもとより、ウェアやシューズなど、それぞれの世界をより楽しく演出する製品をお届けすること。そして自然とともに楽しむサイクリング、フィッシング、ロウイングの素晴らしさをお伝えすることで、お客様により豊かなライフスタイルを提案していきたいと考えています。



〈釣具事業〉

■ シマノを代表するバーサタイルベイトリール 「Metanium」

シマノを代表するバーサタイルベイトリールの一つ、Metaniumがモデルチェンジ。前作よりサイズはコンパクト化しつつ、ボディの剛性やギアの強度を向上させたことで、よりタフな釣りも安心して楽しんでいただけるモデルとなっています。マグナムライトスプールIIIやコアソリッドボディなど、シマノのベイトリールの主要テクノロジーを搭載し、様々なシチュエーションで釣り人の多彩なテクニックを引き出します。



Metanium

■ グローバルスタンダードロッド「ZODIAS」

2015年のデビュー以来、世界中のお客様にご愛用いただいているZODIAS。グローバルスタンダードというコンセプトはそのままに、もっと各国の釣りのスタイルに合わせたラインアップへとアップデート。さらに、優れた感度を実現するカーボンモノコックグリップを搭載し、魚とのファイトをより楽しんでいただける製品へと進化しました。



ZODIAS

■ ICASTにおいてシマノ「VANFORD」 「SP-Orca FB」が受賞

アメリカ最大級の釣具展示会ICAST (International Convention of Allied Sportfishing Trades) は、2020年は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初のオンライン開催となりました。例年同様行われた新製品の授賞式で、シマノのスピニングリール「VANFORD」が「Best Freshwater Reel」賞を、フラッシュブレスト機構を搭載したルアー「SP-Orca FB」が「Best Saltwater Hard Lure」賞を受賞しました。



VANFORD

SP-Orca FB

シマノを支える人づくり

■ 社員教育

シマノでは、各国の研修において企業理念やものづくり思想、企業文化のさらなる浸透に力を入れています。2020年も、創業100周年に向けて制作してきた、沿革史や製品開発、文化創造への取り組み、拠点の広がりなどを様々な観点からまとめた動画を活用。100年の歴史の中で当社が培ってきた企業文化から、現在、そして未来にも変わらず求められる本質を学ぶことで、世界中に広がるチームシマノメンバー共通の企業理解とチームシマノの結束の強化を図ります。

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンラインで開催するなどの工夫を凝らし、困難な状況下においても人材の育成の継続に努めています。



内定式やインターンシップなどをオンラインで開催

● 通信教育

シマノ本社では、階層別研修やリーダー研修に加え、通信教育制度の充実を図っています。語学研修に加え、業務に関連する技能や社会人として推奨される知識に関する検定など、幅広く扱っています。また、これらの受講を会社が補助し、社員の知識向上を支えています。

通信教育申込数 (2016-2020年)					
Year	2016	2017	2018	2019	2020
申込数	322	197	187	187	160

語学研修集計 (2016-2020年)						
Year	言語	2016	2017	2018	2019	2020
集合研修	英語	69	55	46	26	-
	中国語	17	16	14	18	-
オンライン	英語	87	44	77	111	192
	中国語	-	-	-	-	35
計		173	115	137	155	227

※2020年は集合研修開催中止のため、オンラインのみ実施

● 2年目研修

シマノ本社では毎年、入社2年目の社員に対して2日間の集合研修を行っています。

● 3年目研修

シマノ本社では毎年、入社3年目の社員に対して「3年目独り立ち研修」を行っており、2020年はオンラインで実施しました。2日間の研修を通して、受講者は自分の自立度を振り返り、今後のキャリアイメージを描き、シマノで成し遂げたい目標を設定しました。

■ 従業員の訓練と継続的教育 '06年スタート

Innovative Textiles, Inc.は、地域の認定機関と連携し、専門的な訓練を受ける機会を提供しています。習得すべき業務の能力を高める従業員の自己啓発を奨励する教育支援プログラムです。

■ クロストレーニングプログラム '17年スタート

Innovative Textiles, Inc.は、従業員が社内の様々な部署を異動し、新たなスキルを学ぶ機会を提供しています。このことは、従業員の満足と働く喜びの向上につながっています。

■ 従業員ハンドブックの配布 '20年スタート

シマノチェコでは、新入社員向け「従業員ハンドブック」をチェコ語とポーランド語で作成。就業に関する諸事項や会社についての理解といった重要な情報を全員に周知することを目的とし、①会社紹介、②就業時間、③従業員に役立つ情報、④福利厚生、⑤就業規則の5部で構成しています。

■ 人材育成プログラム '20年スタート

シマノバタムでは、6月から12月に、新入社員研修を実施しました。研修内容は、評価と品質、評価と安全、人事管理者認定プログラム、溶接技術、フォークリフト運転技術、クレーン運転技術など多岐にわたります。



■ シマノの志を伝える活動 '19年スタート

シマノカンボジアでは、社内報『S-mile』をメインオフィスのコーナーに置き、従業員が読めるようにしています。また、人事評価の一環として、『S-mile』を読む1時間の研修を毎月実施しています。

■ 社内研修委員会を設立 '20年スタート

シマノシンガポールでは、業界の変革への迅速な対応とそれをリードしていくために、社内研修委員会の覚書への署名を行いました。

■ 若手リーダー相互研修 '20年スタート

シマノフィリピンは、将来を担う若いリーダーの育成に力を入れています。「Shine and Silent」をテーマに、リーダー候補生を対象としてグループワーク等の社内研修を実施しました。



■ シマノアカデミー '13年スタート

シマノヨーロッパ各社では、役員から新入社員まで幅広いメンバーを対象とした教育プログラムを実施し、従業員のキャリア開発に効果を発揮しています。



■ 応急処置対応の担当者を配置 '06年スタート

Innovative Textiles, Inc.は、各部署に応急処置対応の担当者を配置しています。緊急時には医療従事者が到着するまでの間、応急処置ができる訓練を受けています。

■ 消防避難訓練 '19年スタート

シマノ昆山は2020年6月、安全意識向上のため、外部委託のスタッフを対象に、応急処置や消防訓練などを行いました。



■ 監視員訓練と避難訓練の実施 '14年スタート

シマノオーストラリアは、毎年、消防訓練、監視員訓練、避難訓練を実施しています。



■ 長期勤続者賞 '20年スタート

シマノフィリピンは、勤続5年目を迎えた従業員の献身を称えました。受賞者たちの働きは、シマノフィリピンの事業の推進と、継続的な成長を支えています。



● 防災訓練 '90年スタート

シマノ本社では、避難誘導訓練、消火訓練、放送・アナウンス訓練など総合訓練を毎年行っています。



● 消防避難訓練

シマノ下関工場では、敷地内での災害を想定して、毎年避難訓練を実施しています。



■ 火災避難訓練 '12年スタート

シマノバタムでは、毎年の恒例行事の一つとして、安全性の強化のために火災避難訓練を行っています。



■ 運動会を開催 '20年スタート

シマノバタムでは、従業員のスポーツマンシップと健康意識の育成、生産性向上のため、毎年運動会を開催しています。

■ 防火避難訓練 '17年スタート

シマノ上海は2020年11月、防火に関する知識をよりよく身につけてもらうため、防火セミナーと安全避難訓練を実施しました。

● 産業標準化事業表彰受賞

2020年10月1日、日本規格協会の産業標準化事業・経済産業大臣賞を、品質管理部の吉村慎二参与が受賞しました。この賞は、標準の策定や適合性評価活動(製品やサービスが標準に適合していることを評価する活動)等、産業標準化に顕著な功績があった人、及び組織に贈られます*。*経済産業省HPより



コンプライアンス促進への取り組み

■コンプライアンス促進への取り組み

シマノでは、チームシマノが事業活動で遵守すべき方針を「行動規範」として定めています。その「行動規範」に基づいた「コンプライアンス規程」や「コンプライアンスガイドライン」の制定、「コンプライアンス意識調査」の実施、「コンプライアンス相談窓口」の設置など、チームシマノが目指すコンプライアンス態勢と、体制を確立するために必要な「意識の醸成」、「知識の習得」、「行動の促進」の3つの要素の向上を目指し、さまざまな活動に継続的に取り組んできました。

2019年にはコンプライアンス教育の新たなツールとしてクラウド型eラーニングシステムを導入しました。同年末に開始、以来テーマごとの研修を定期的実施することで、従業員一人ひとりの高い遵法精神と良識ある企業人としての意識、行動の一層の向上に努めています。

コンプライアンス活動

国内対象

- ・階層別研修
対象：新入社員、新任管理職、管理職
- ・eラーニング研修
実施テーマ数：12テーマ（ハラスメントの防止、独占禁止法の遵守など）
研修受講率：96%
- ・周知活動
毎月の朝礼放送や各テーマのチェックポイントを電子掲示板にて周知
- ・専門部会活動
下請法遵守活動として3か月に1度開催

国内・海外対象

- ・eラーニング研修
対象：全管理職
実施テーマ数：2テーマ（情報セキュリティの意識向上、差別とハラスメントの防止）
研修受講率：91%

■コンプライアンス研修

シマノバタムでは、3～7月に、コンプライアンス意識向上のため研修を実施しました。内容は、ISO9001/14001/45001の社内監査役研修や意識向上などがあります。



■コンプライアンス研修

シマノシンガポールは、環境、業務上の健康と安全、およびエネルギーと水の効率に対する意識向上のため、該当部署の従業員を対象に法務とリスク評価の研修を行いました。法的要件は定期的に改正されるので、この研修は各分野に長けた担当者が定期的実施することが肝要です。

■コンプライアンス研修

シマノ台湾は毎年、全従業員を対象に研修を実施しています。毎月の月例会議で、コンプライアンスと就業規則の認識を高めるための座学を実施。従業員の理解度を測るため、eラーニングやクイズも活用。その結果を分析・共有することで、従業員は間違いから学び、正しい答えを導き出します。また、年ごとの主要テーマに沿って、さまざまな分野の専門家を招いてセミナーを実施。2020年はサイバーリスクの特定と防止に焦点を当てました。

■コンプライアンス研修

シマノ上海では、「サプライヤーと公平公正な取引を行うための法律要求」と「知的財産の保護」の2テーマについて、外部の法律事務所の方を招き講義を行いました。

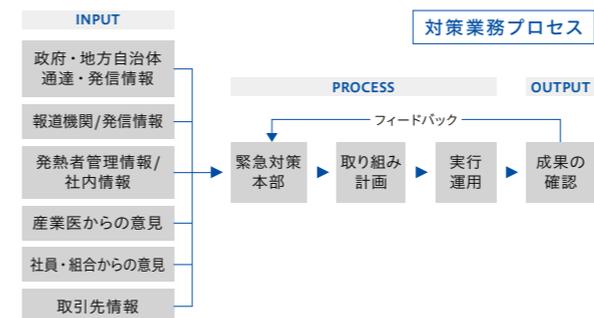
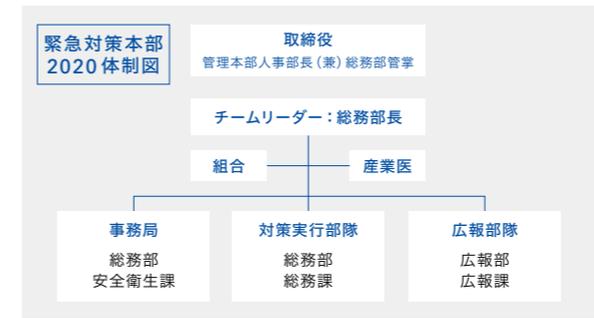
感染症拡大防止への取り組み

■感染症防止対策

シマノでは、2019年末から2020年初頭に発生し、世界中でなお猛威をふるっている新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、さまざまな活動に取り組んでいます。今後も従業員とその家族、地域、ひいては社会全体の安全を守るため、グループ全体として万全の対策を講じていきます。

■本社の取り組み

シマノ本社では、国内で感染が広がり始めた3月初めに「COVID-19 対応マニュアル」を制定し、体調がすぐれない場合等の対応を明確化。また在宅勤務制度の導入や、毎月の安全衛生委員会において、産業医による専門的な見解と、会社としての対策の共有を徹底しました。4月には、政府の緊急事態宣言発令を受け、社内に緊急対策本部を発足。以来、事務局としてマニュアルの改訂や社内感染者発生時の初動対策、国や自治体から得られる情報への対応、ステークホルダーへの適切な情報発信などに努めています。シマノでは、2002年末～2003年にSARS（重症急性呼吸器症候群）の感染が拡大して以来、マスクを含めた防災グッズや消毒用アルコールなどの定期購入を行ってまいりました。これにより、今回の新型コロナウイルス感染拡大初期における中国自社拠点へのマスクの送付や、国内従業員への定期的なマスクの配布、各拠点での消毒用アルコール配置強化などに迅速に対応することができました。



■新型コロナウイルス感染防止対策 '20年スタート

Shimano Bisiklet (シマノトルコ)の従業員は、2020年8月から12月までの間、医療機関による新型コロナウイルスの検査を隔週で受け、健康管理を徹底しました。



■感染予防の強化と導入 '20年スタート

シマノオーストラリアは、新型コロナウイルス感染予防のための新しい洗浄方法と安全対策を導入しました。

■従業員の健康増進 '20年スタート

シマノシンガポールは、従業員の健康意識を高めるため、毎年、従業員の健康診断を実施しています。基本的な診断は、血圧測定、BMI測定、疾病を特定するための血液検査です。医療チームは従業員と面談して、健康診断の大切さを強調しています。

■感染予防対策/柔軟な勤務体制の促進 '20年スタート

インド政府が新型コロナウイルスの国内での蔓延を防ぐために21日間行った全国的な都市封鎖の解除後も、シマノインドの従業員は在宅勤務を続けています。現在、インドの症例数累計は世界で2番目で、1日当たりの感染率も高いので、感染率が大幅に下がるか、ワクチンができるまで在宅勤務を継続します。

■感染症感染拡大防止に関する活動 '20年スタート

シマノ熊本では、新型コロナウイルス感染防止のため、会議室・事務所・食堂などの換気、消毒剤の設置等、合計19件・34詳細項目にわたる対策を講じ、日々継続しています。



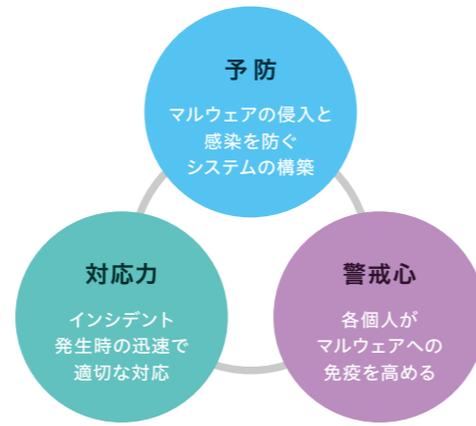
■柔軟な働き方推進 '20年スタート

シマノセールスでは、本社と同様に、在宅勤務や混雑を避けるための勤務時間の変更等、多様化する働き方に対応した制度を順次、整えています。

サイバーウイルス対策

■ 本社におけるランサムウェア対策

感染を防ぐシステム構築による「予防」、重大なセキュリティ・インシデント発生時に適切にアフターケアする「対応力」、一人ひとりがマルウェアへの注意力・免疫力を高める「警戒心」の三位一体の対策に取り組んでいます。

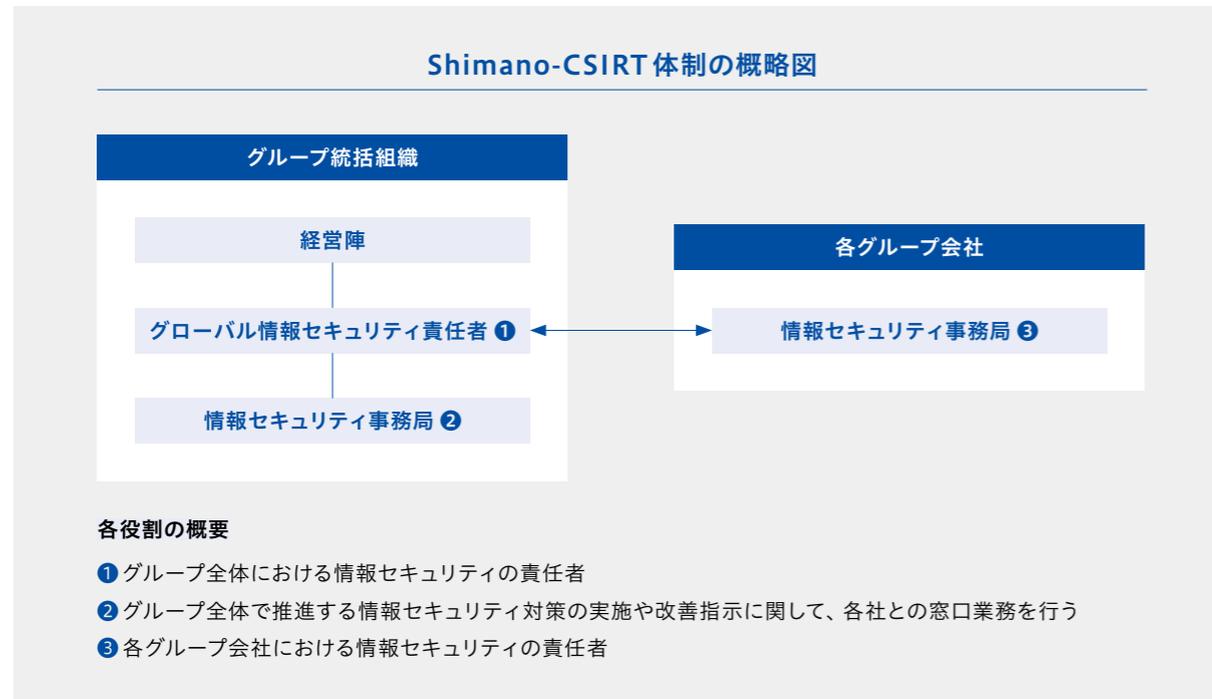


■ ランサムウェア対策チームの取り組み

シマノではサーバー・PC・関連機器に対してサイバーウイルスの感染を防ぐためのセキュリティツールを導入しており、現存するほとんどのマルウェアに対応することができます。サイバー攻撃リスクを洗い出し、セキュリティシステムの強化を図るも、巧妙かつ多様化され、また未知のものが出現した際にはシステムのみでの対応には限界があり、従業員一人ひとりの免疫力を高めることが重要です。その一助となるように、従業員に対して、マルウェアへの理解を深め、免疫力を高めるようなコンテンツをeラーニング等で今後実施していきます。

■ グローバル目線でのコンピューターセキュリティ・インシデント発生時の対応

2020年6月、世界各国のチームシマノにおけるグローバルポリシーとしての「情報セキュリティ規程」が全面改訂されました。そこでは情報セキュリティガバナンス推進体制(Shimano-CSIRT: 下記概略図)を定義し、その役割と責任を規定しています。チームシマノにおける情報セキュリティ能力を高めるため、現在、定義した体制の整備・運用を進めるとともに、情報セキュリティガバナンスの実効性を把握したうえで課題の洗い出しを進めています。



CSIRT (Computer Security Incident Response Team: シーサート) とは、コンピューターセキュリティに関わるインシデントに対処するための組織の総称。日本CSIRT協会には2019年12月にシマノも加盟し、会員企業間での情報共有などを行っています。

DX (デジタルトランスフォーメーション)

● Good-bye 判子プロジェクト

シマノは、開発型デジタル製造業としてSDM(シマノ・デジタル・マニュファクチャリング)活動をはじめとしたDX(デジタル・トランスフォーメーション)に取り組むことで、ビジネス環境の変化に対応し、顧客や社会・従業員のニーズに応えるためにビジネスモデルの変革を進めています。本社の間接部門では、業務そのものや組織・プロセスの変革と効率化を図るため、2020年6月に「Good-bye 判子プロジェクト」を発足し活動を開始しました。デジタル化ありきではなく、あらゆる間接業務の棚卸を行い、部門横断にてゼロベースで見直すことを方針とし、現場のニーズに寄り添うデジタル化の実現を目指します。2021年2月現在、間接業務における申請書の3割をデジタル化、残りの7割は業務手続きの刷新または業務廃止とする計画を立案しました。2021年半ばのプロジェクト完了を目指し、今後も直接部門を下支えするため、間接部門が提供するサービスにおいて真の価値創造に努めていきます。



🇸🇬 業務の効率化のためのデジタルトランスフォーメーション '20年スタート

シマノシンガポールは、業務の効率化のためデジタル化を確立しました。デジタル化により、設計、出図、修正、承認の工程を短縮し、手作業による処理や書類作成をなくすることができます。工程の効率化のほか、紙の書類がなくなることで保管場所も不要になります。

🇸🇬 LPCのデジタルトランスフォーメーション '20年スタート

シマノシンガポールは、シンガポール政府が義務付け、厳格に管理するLPC*の管理のデジタル化を2020年3月から実施しています。これにより、手作業による書類作成や修正、保管場所が削減できます。また、LPCの有効性を監視し、有効期限が切れる前に、各部門の担当者に必要な手続きをするよう自動的に通知します。ワークフローでは、紙の書類をなくし、マスターリストを管理・記録します。こうして、効率化とグリーンマニュファクチャリングを促進します。

*LPC: 必須のLicense (ライセンス)、Permits (許可)、Certificates (証明書)の意



安全・品質の強化

■「安全・品質 学びの場」安全安心な職場環境と確かな品質をつくり上げるために

2020年10月、シマノ本社ビルに「安全・品質 学びの場」がオープンしました。学びの場は「安全道場」と「品質道場」の2つのブースで構成されています。両道場では過去に発生した重大な事故や品質問題から得た教訓・体験知をわかりやすく展示しています。お客様の信頼を裏切らない品質でものづくりをすることの大切さに気づき、これからも安全安心な職場と確かな品質を、従業員一人ひとりがつくり上げていくための学びの場です。

■ 安全道場

2つの着眼点から展示をしています。

1点目は、シマノが引き起こした重大事故の掲示です。2018年の本社工場での火災、及び下関工場の有毒ガスの発生といった事故により、近隣にお住まいの方々をはじめ、警察、消防他多方面へ多大なご迷惑をおかけしてしまいました。また、当社の供給責任という観点から見ても、世界中の完成車メーカー様をはじめとするお客様にご負担をおかけする事態を引き起こしてしまいました。二度と起こしてはならない事故の教訓が風化しないよう、この場で啓発をしていきます。

2点目は、労働災害の原因の1つである「保護具の未着用によって引き起こされた災害」に集点を当てた展示です。例えば、薬品、刃物の取り扱い時に、どのような危険が潜んでおり、保護具はどれほど効果があるのかを体感できるようになっています。



海外技能実習生向け
安全研修の様子

保護具の効果をわかりやすく展示

■ 品質道場

過去の重大品質問題に関する掲示や不適合品の現物展示を行っています。

大量の不適合品やお客様から返品されたりコール品などを間近に見ることで、お客様に製品をお届けする責任の大きさを肌で感じ、そのために何をすべきかを考える場となっています。



🇸🇬 アンモニア漏出への緊急対応 '20年スタート

シマノシンガポールの緊急対応委員会は、火災や化学物質流出への初期対応の有効性を評価するため、毎年、シンガポール市民防衛隊による書類と実地の監査を受けています。2020年は監査がなかったため、アンモニア貯蔵施設において、負傷者の救助と応急医療処置の訓練を行いました。この訓練は、化学物質流出による事業の混乱を最小限に抑え、環境への影響を防ぎ、従業員の安全を守るために非常に重要です。

🇸🇬 職場の安全・衛生、環境、エネルギー・水効率の意識向上 '20年スタート

シマノシンガポールは、職場の安全・衛生、防火、環境、エネルギー・水効率についての意識向上のためのキャンペーンを毎年開催。2020年は消防の実演や従業員による消火器を使った実地訓練などを行いました。これらの活動により、コンプライアンス違反を最小限に抑え、最終的には生産効率の向上につなげるという意識を高めます。

● 安否確認サービスの導入 '20年スタート

災害発生時の従業員の確実な安否確認のため、シマノ本社と下関工場では、安否確認サービスを導入しました。台風や地震などの災害に加え、感染症など様々な未曾有の事態に備え、従業員の安全を守り、企業としての適切な緊急対応に一層努めます。

🇮🇩 QEHS* キャンペーン '12年スタート

シマノバタムでは、「不適合品ゼロとゼロ災害に向けた5Sと安全文化の構築」などのあらゆるテーマに基づき、この活動に取り組んでいます。

この活動の目的は、①品質レベルを維持する、②事故をゼロにする、③安全で環境に配慮した職場をつくる、④健康な暮らし、⑤5Sのレベル向上を掲げています。

*QEHS: Quality (品質)、Environment (環境)、Health (健康)、Safety (安全性)の意



安全・品質 学びの場
Safety and Quality
A Place to learn

自転車通勤推奨活動

シマノでは、自転車通勤を積極的にサポートしています。電車のラッシュや交通渋滞に遭うことがなく、健康にも良い上、現下ではコロナ禍への対応策のひとつとしても、自転車通勤をする社員が増えています。

■シマノ本社自転車通勤制度

•気持ちよく仕事ができることを考えた設備

本社厚生棟 Team Shimano Square (TSS) 1階には、自転車通勤者のために約550台が収容できる駐輪場が整っています。浴場をはじめシャワーブース、ロッカールームを完備。また、コンプレッサー式空気入れや共用工具も備え、自転車のメンテナンスもしやすい環境になっています。

•約4割の社員が自転車通勤

約4割の本社正社員・契約社員が自転車通勤の登録をしています。

•自転車通勤手当の支給

自転車通勤を奨励するため、ヘルメット着用者には月5,000円、ヘルメット非着用者には月2,600円の手当を支給しています。

•自転車及びヘルメット購入補助金の支給

通勤用の自転車及びヘルメットの購入代金に応じて一定の補助金を支給しています。

■社内安全教育

社内のスポーツバイク初心者向けに「交通安全教育」を実施。日常点検や基本的な整備方法を、実車を扱いながら学ぶ講習会を開催しています。

■シマノ本社・シマノセールス 「自転車通勤推進企業」宣言企業に認定

2020年、国土交通省が「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトを立ち上げ、自転車通勤を積極的に推進する「宣言企業」の認定を開始しました。8月27日、初年度の宣言企業として24企業・団体が認定され、シマノ本社・シマノセールスが認定を受けました。今後、宣言企業の中から特に優れた取り組みを行う企業・団体が「優良企業」に認定される予定です。

※2021年2月1日現在、宣言企業の数は38社



女性用
シャワーブース

男性用大浴場



自動車1台分のスペースに
13台の自転車が収まる駐輪場



『自転車通勤推進企業』宣言プロジェクト

自転車通勤を導入する企業・団体を自転車活用推進本部長(国土交通大臣)が認定し、自転車通勤の取り組みを広く発信しています。

※宣言企業は随時募集、優良企業は毎年1回認定

<国土交通省・自転車活用推進本部資料より>

	宣言企業	優良企業
認定要件	以下の3項目全てを満たす企業・団体 ①従業員用駐輪場を確保 ②交通安全教育を年1回実施 ③自転車損害賠償責任保険等への加入を義務化	自転車通勤者が、100名以上又は全従業員の2割以上を占め、先進的な取組を行う宣言企業から、独自の積極的な取組や地域性を総合的に勘案し、特に優れた企業・団体を認定
期間	5年間有効(更新可)	宣言企業の有効期間(更新可)
認定ロゴ		

自転車・釣りの啓蒙活動

● シマノドリンキング

シマノ本社には、1978年に発足したサイクリングクラブ「シマノドリンキング」があります。従業員自ら自転車レースを楽しむことはもちろんのこと、レース現場から得られる知識を当社のもづくりの現場に落とし込むという重要な役割を担っています。2020年現在の所属者は67名、20代から60代の幅広い部署の従業員がともに活動する交流の場にもなっています。



■ 社内ライドを実施

'16年スタート

Lazerでは毎週火曜日に従業員のライドを実施。仲間意識の醸成や製品テスト、そして心身の健康維持も兼ねています。誰でも参加でき、ペースも参加者に合わせて調整します。2020年は新型コロナウイルスに対応し、回数を制限して実施しました。

■ 自転車通勤手当を支給

'20年スタート

Lazerは、2020年6月に自転車通勤手当支給を導入しました。2021年には希望者に自転車の貸与も始める予定です。

■ サマーライドを実施

'20年スタート

PEARL IZUMIでは2020年、従業員がもっと自転車に乗ることを奨励するため、サマーライドチャレンジを開始しました。参加者は7~9名から成る12チームに分かれ、毎日の走行距離(運動、仕事、日常使い)を記録します。毎月、チームごとの走行距離を合計し、賞を贈呈します。



■ ゴー・カーレスを実施

'09年スタート

PEARL IZUMIでは自動車を使わない通勤を奨励しています。従業員は自動車に乗らなかった通勤距離を記録し、それに対して付与されたポイントを貯めるとPEARL IZUMI製品がもらえます。



■ 自転車通勤を推進

'13年スタート

シマノチェコは、非営利組織AutoMatが7年以上、毎年5月に開催しているGo to Work by Bikeを、スポンサーや従業員のコンペ参加などで支援しています。期間中、参加者は自転車か徒歩、ランニングで通勤します。今回は30名・11チームが参加しました。



■ 書店で自転車イベントを開催

'18年スタート

シマノ上海では、2020年8月に上海の新華書店でサイクリングの世界をテーマにイベントを開催し、6~12歳の子ども36人と家族30組が参加しました。自転車の歴史や安全な乗り方の解説、交流とアンケート調査などを行いました。

■ ルアーフェスティバル

'19年スタート

シマノ上海では、釣り大会、製品を使った実演、親子イベントなどを通じて、ルアー文化を広めるための活動を行っています。「家族」をコンセプトとして新しい世代の釣り愛好家を育成し、シマノブランドへの親しみや人気を醸成していきます。



■ 従業員の釣り交流会

'19年スタート

シマノイギリスの従業員は地域の商業釣場に出向き、最新のシマノ製品で実釣を体験し、シマノ専属の釣りエキスパート、ニック・スピードからプロの指導を受けました。それまで釣りをしたことがないメンバーもいましたが、彼らが日頃、市場への供給に懸命に取り組んでいる釣りというスポーツに熱中していました。



■ 「自転車通勤推進企業宣言」と 「自転車利用推進委員の設置」

'20年スタート

シマノセールスでは、所在地である堺市が推進する「堺市自転車のまちづくり推進条例」に基づき、「自転車利用推進委員」を設置。自転車の安全利用を従業員等に啓蒙することで、自転車の利用者だけではなく、高齢者を始めとする交通弱者の安全も守られる自転車文化を育む取り組みをしております。

よろこびの高揚

——人々に楽しみとよろこびを提供する

「こころ躍る製品」——それは人々に自転車・釣り・ロウイングの楽しさを満喫していただくものに他なりません。そして、その楽しさをより多くの人々に伝え、その機会を提供していくことも、当社の重要な活動のひとつです。当社が主催や協賛している様々な自転車・釣り・ロウイングのイベントは、人々の楽しみ場であるとともに、交流の場となるものとして大切にしています。

今回は創業100周年という節目に当たり、「新しい自転車文化・釣り文化の創造を目指して」と題し、シマノが価値創造企業としてこれまで長く取り組んできた活動を「新たな価値の創出」「魅力あるフィールドの創造」「楽しむ場・機会の拡大」「文化発信拠点の展開」を柱にご紹介します。

新しい自転車文化・ 釣り文化の創造を目指して

テーマ
1

新たな価値の創出

今日、自転車・釣りの文化的価値や社会的役割は大きく変化しています。

シマノでは時代の変化に合わせて、自転車・釣りの文化的価値を見直し、情報発信とともに製品を通じて新たなライフスタイルの創出を後押ししています。



テーマ
2

魅力あるフィールドの創造

一流アスリートが競い合う自転車ロードレースや、卓越した釣技を披露するインストラクターの魅力あふれる最前線のシーン。シマノは、そうした“夢が生まれるフィールド”をあらゆる側面からサポートし、自ら創り上げる活動を積極的に展開しています。



テーマ
3

楽しむ場・機会の拡大

サイクルスポーツや釣りのイベントを世界各地で開催・協賛してきたシマノ。観客の皆様にも楽しさを感じてもらえるような工夫、また自転車・釣りの新興国における積極的な展開により、文化としての発展を支えます。



テーマ
4

文化発信拠点の展開

製品開発やイベント開催はもちろん、自転車・釣りの歴史や楽しみ方などの知識や情報を発信することもシマノの重要な責務。それを実践する“シマノ発文化発信の場”の運営・展開を行い、新しい体験や価値を共有していただくことに努めています。



テーマ
1
新たな
価値の創出

シマノは、1970年代から製品やイベント、出版物などを通じて自転車と釣りの価値やそれらのある暮らしの豊かさを提案してまいりました。製品の性能を伝えるだけでなく、楽しみ方やよろこびを伝えることで、文化を創造する。それがシマノの使命だと考えています。

01 『すばらしき自転車野郎』
『シマノワールド』
『The City Cycle』
『Les Maillots (レ・マイヨール)』

自転車の楽しみを広く発信し、自転車文化の振興を目指す。

バイコロジーブームを日本にも広めたい——
『すばらしき自転車野郎』

1960年代半ば以降、アメリカではスポーツバイクブームが起っていました。1972年から約1年間、全国放映された『すばらしき自転車野郎』は、シマノが提供する初のテレビ番組でした。セミ・ドキュメンタリータッチで自転車の楽しさや魅力を幅広く取材した番組として、自転車愛好者を中心に話題を呼びました。



シマノが初めてスポンサーについた全国ネットのテレビ番組『すばらしき自転車野郎』の1シーン

シマノと販売店を結ぶ“経営に役に立つ”情報誌
『シマノワールド / シマノクラブ』

1977年、国内の自転車販売店向けに『シマノワールド』を発刊しました。国内外の販売店のケーススタディ紹介をはじめ、幅広く自転車文化を紹介しました。現在も『シマノクラブ』という誌名で年6回発行しています。

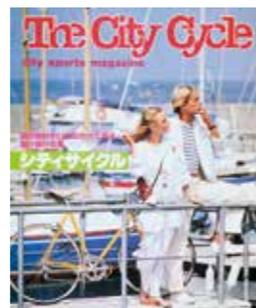


1977年春季創刊号の『シマノワールド』

雑誌媒体による文化発信と業界活性化への貢献
『The City Cycle』『Les Maillots (レ・マイヨール)』

1980年、スポーツファッションとして自転車の普及を提案するマガジン『The City Cycle』を発刊。自転車のある都市型ライフスタイルを訴求しました。

一方、1984年に創刊したロードレースグラフィック誌『Les Maillots (レ・マイヨール)』は、本場のロードレースの魅力を実場のリアルな写真とグラフィックで鮮烈に伝えました。



The City Cycle



Les Maillots (レ・マイヨール)

02

自転車と健康/
『Cyclingood』

自転車と一緒につくる、健康的で豊かな暮らしの提案。

自転車運動によるエネルギー代謝や筋力の維持・増強、そしてメンタルとの関係性など、大学や研究機関と幅広いテーマについて共同研究を行い、それらの成果を企業や自治体に共有し、健康づくりを推進しています。

こうした社会的アプローチの一方、自転車を取り扱う店舗やユーザーに向けた「情報発信」として、2013年には『Cyclingood』(サイクリングッド)と題したフリーペーパーとWebサイトを展開。その後も通勤サイクリングを提案するWebサイト『MIND SWITCH』や、研究結果を分かりやすく表現した『Health Data File』などがあります。

変わりゆく社会の中で、「健康」はさらに重要性を増しています。シマノはこれからも、自転車の魅力や価値を多くの人に伝えることにより暮らしを豊かにする取り組みを通じ、業界や社会の発展に貢献していきます。



MIND SWITCH

Cyclingood



03 『Japan Fishing Club』
『Fishing Café』
『釣り百景』
『おとな釣り倶楽部』

クロスメディア展開により、新しい釣り文化の創造と業界の発展を目指す。

『Japan Fishing Club』(1979年～1980年代後半)
アウトドアスポーツとしての釣りの魅力を幅広く発信

『Fishing Café』(2000年～)
釣りの文化的側面を掘り下げて、より多くの人にアピール

『釣り百景』(2013年10月～)
自然とのふれあいを魅せる釣り紀行番組

『おとな釣り倶楽部』(2015年9月～)
シニア世代を対象に、釣りを中心とした余暇の過ごし方を提案



Fishing Café



釣り紀行番組「釣り百景」



Japan Fishing Club
会報誌



おとな釣り倶楽部の釣り体験会



テーマ
2

魅力ある
フィールドの創造

01

自転車選手・チームのサポート

サイクルスポーツ文化の発展を支える。

世界のプロ・アマチュア選手および チームへのスポンサー活動

シマノはロードレースをはじめ自転車競技へのスポンサー活動を幅広く展開しています。世界を転戦するスポンサーチームや選手たちが、どこへ行っても均一に高いレベルのサービスが受けられるよう、世界中に広がるシマノのマーケティングチームが情報を共有し、活動を行っています。

また、自転車文化が発展途上段階にあるといえる地域でも、市場を盛り上げ、文化の向上に寄与しています。



多くの人に自転車を楽しんでもらう場をつくり、自転車ファン、シマノファンを増やすことも重要

Shimano Ladies Power

パラサイクリングへのサポート

1990年代後半からシマノはUCI（国際自転車競技連盟）とのパートナーシップを通じて、障がい者の自転車競技パラサイクリングをサポートしています。

スポンサーや製品提供のみならず、「シマノ鈴鹿ロード」ではハンドバイクのエキシビジョンレースを開催することにより、競技の認知拡大に貢献しています。



2017年UCIパラサイクリングロード世界選手権、大会の三輪車レース



2019年シマノ鈴鹿ロードハンドバイクエキシビジョン

02

レースサポート

競技者の安全と万全な
レース運営を支える取り組み。

世界最高峰のプロレースから一般のサイクルイベントまで、安全に、楽しく走っていただくために、さまざまなテクニカルサポートを展開しています。



安全に楽しく走っていただくために、テクニカルサポート



03

シマノレーシング

日本のサイクルスポーツの
発展拡大に向けて。



シマノレーシングは、創設以来、日本チャンピオンや五輪代表選手を輩出した強豪チームです。トレーニングや実戦での評価を製品開発にフィードバックするという、テストライダーとしての重要な役割も担ってきました。現在は、国内レースシリーズの発展支援やファンに向けた情報発信、初心者や子供向けの自転車教室など、長期的かつ広い視野を備えたサイクルスポーツ文化の創造を目指し、活動しています。



シマノレーシングの選手たちによる、初心者から中級者向け教室

04

インストラクター

釣り人の目線に立って、
さらなる釣り文化の高揚へ。

釣りのエキスパートとしての新たな釣法の創造・訴求により、釣りの楽しみを広げるムーブメントを盛り上げるのみならず、高い釣り技術と広い知識により、「こころ躍る製品」づくりにも貢献しています。



ソルト・ビッグゲーム攻略の魅力を発信



テーマ
3

楽しむ場・
機会の拡大

01

シマノ鈴鹿ロード

シマノが主催する日本最大級の
サイクリスポートイベント
「シマノ鈴鹿ロード」。

「シマノ鈴鹿ロード」は、初心者から国内外のトップレーサー、子どもから大人まで幅広く参加できる国内最大級のサイクリスポートイベントです。

1984年、兵庫県のグリーンピア三木で「シマノグリーンピアロード」としてスタート(第9回大会から会場を鈴鹿サーキットに移して改称)して以来、2019年で36回の開催を数えました。回を重ねるごとに、さらに多くの人々に楽しんでもらえる体制を整え、参加者も開催当初の延べ約1,000人から最大約15,000人へと増加しました。

ロードレースを、観る人にとっても魅力的なスポーツにしよう、観客がライダーと同じくらい興奮できるような活気あるイベントにしようというかけ声のもと、第1回から現在も変わらず社員自ら運営を行っています。お客様のため、ひいては業界のためという熱い想いで、多くの社員が企画段階から参画。自ら現場に赴き、お客様と同じ空気を吸い、サービスを提供する。この精神に則り、イベント当日も受付から選手招集、コース誘導、ゴール審判、救護まで、幅広く運営に参加しています。

「シマノ鈴鹿ロード」はお客様に親しまれ、ともに歩み、つくり上げてきたイベント。シマノはこれからも自転車を楽しむ場を提案していきます。



第1回大会(1984年)
「シマノグリーンピアロード」としてスタート



第15回大会(1998年)
この年から未就学児を対象にしたミルキーレースがスタート



第28回大会(2011年)
この年からチームタイムトライアルに女性クラスを追加

サイクリスポートイベント「シマノ鈴鹿ロード」や「シマノ・バイカーズフェスティバル」、競技としての釣りの醍醐味を伝える「シマノジャパンカップ」。
シマノは、こうした日本でのイベントとともに、世界各地で自転車や釣りのイベントを主催・協賛。競技者だけでなく、一般の人々にも楽しむ場を提供し、魅力を伝えていくことを目指しています。

02

シマノ・バイカーズ フェスティバル

マウンテンバイクを中心とした
日本最大級のサイクリスポートイベント。



南アルプスと八ヶ岳連峰に囲まれた豊かな自然を舞台に、2日間にわたって繰り広げられる「シマノ・バイカーズフェスティバル」。クロスカントリーやダウンヒルなどのオフロードレースからトレイルライドやロングライドなどのツーリング種目まで、多彩なスポーツバイクの楽しみ方を提供しています。また近年は、地元の方々にもご協力いただき、地元の食材を振る舞うパーティーや、地元の野菜などを購入できるマルシェなどのイベントにも力を入れています。

03

Shimano Biker's Festival in China / Shimano Fest in Brazil

新興国における自転車・
釣り文化の振興と発展に向けて。



【Shimano Biker's Festival】
中国初の本格的なホビーレース開催で
サイクリスポート振興に寄与

2003年、シマノ上海は中国・北京において「Shimano Biker's Festival」を初めて開催しました。その後、瀋陽/新陽、広州、南京、成都と開催地を拡げ、中国におけるサイクリスポート振興に大きく貢献しました。

【Shimano Fest】
年中行事として市民から親しまれる
スポーツ自転車・釣りイベントに成長

シマノラテンアメリカが、2010年よりブラジル・サンパウロで開催している「Shimano Fest」。大都会に住む人々が、自然とふれあうきっかけとして自転車に接する機会を提供しようという社会活動の側面と、現地の自転車文化向上に貢献したいという文化創造の観点から始まったイベントです。

04

シマノジャパンカップ/ 各釣種イベント

国内における競技スポーツとしての釣り振興と
多様な釣りを楽しむ“場”の提供に向けて。



【シマノジャパンカップ】日本最高峰のフィッシングトーナメント

1984年、「シマノジャパンカップ」はメーカー主催の大会がまだ希少だった中、ファンの要望に応じて競技としての釣りを楽しむ場の提供と、釣りの社会的価値の向上を目的として始まりました。現在では、5釣種計57大会の総エントリー人数は10,000人をを超えるまでになっています。

テーマ
4
文化発信拠点の
展開

シマノでは自転車や釣りの新しい楽しみ方を伝える場を自ら構え、興味を持つ人々の裾野を広げるため、国内外に文化発信拠点を展開。新しい自転車文化・釣り文化の創造を志向するとともに、地域振興や国際交流の分野においても活動の幅はますます広がっています。

01

LIFE CREATION SPACE OVE

自転車の価値を再定義することで、豊かなサイクル・ライフスタイルを提案。

シマノは2006年1月、さらなる自転車文化の発展と普段あまり自転車に乗らない人も含めより広く自転車の楽しみを知ってもらおう機会の提供を目的に「LIFE CREATION SPACE OVE」をオープンしました。「OVE」にはOpportunity（機会）、Value（価値）、Ease（気楽さ、容易さ）という理念とともに、人々がこれまでの自分を超越して魅力的なライフスタイルを探求する「Over Myself」という想いが込められています。さまざまなコト・モノ・人に出会う体験を通して、新しい発見や学びが得られる“ライフ・クリエーション・スペース”として、カフェや家具、雑貨などのセレクトアイテムを置き、各種イベントやセミナーも実施。これらの活動を通じて自転車の価値の再定義を行い、自転車の社会的地位の向上、ひいては新しい自転車文化の創造を目指しています。



散歩
散歩のようにゆったりと走り、道中で出会うモノ・コトを楽しむ



カフェ
東洋医学をベースにしたランチ



イベント
いろいろな「知りたい」に応える交流の場

02

SHIMANO CYCLING WORLD

東南アジアにおける自転車文化の発展とシマノブランドの浸透に向けて。

シンガポール中心部にあるアジア最大級のスポーツ複合施設 Singapore Sports Hub内に2014年9月、「SHIMANO CYCLING WORLD」がオープンしました。自転車をテーマとした広さ約650㎡の体験型展示施設で、シンガポールにおける自転車文化の発展と、ライフスタイルとしての自転車利用の推進、さらには東南アジアにおけるシマノブランドの浸透を目的に、人々が自転車をより身近に感じ、新しいライフスタイルを実現できるよう様々な提案を行っています。

Cycle Cassette
自転車の進化と歴史をたどる



The Forge
自転車の技術と機能を体感する



ワークショップ



ガイド付きツアー



屋外バイククルーズ



Dream Machine
躍動する自転車の美と世界観を感じる



03

SHIMANO SQUARE

都市における「知的創造・交流の場」として上質な自転車と釣りの世界の魅力を伝える。

2017年2月、「出会い」「価値体験」「感動体験」「癒やし・くつろぎ」を提供する場として、「SHIMANO SQUARE」を大阪市北区のグランフロント大阪・ナレッジキャピタルにオープン。大阪の中心地という多くの人が行きかう環境を生かし、自転車・釣りを通して新しいアーバンスポーツライフを提案するとともに、シマノが創造する文化的価値や製品の魅力の訴求を目指しています。カフェやブックライブラリー、自転車・釣りに関するギャラリー、そして上質なモノを扱うライフスタイルストアを設置。また講習会や各種ワークショップ、「散走」などのサイクリングイベント開催にも注力しています。都市における「知的創造・交流の場」をテーマに、より多くの人々に上質な自転車と釣りの世界の楽しさを知ってもらうための取り組みを展開しています。



散走



釣り講座

04

SHIMANO EXPERIENCE CENTER

自転車・釣り・ロウイングの楽しさをより多くの人に。

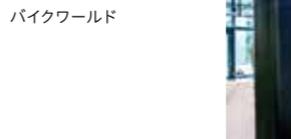
ドイツ・ベルギーとの国境に近いオランダ南部の街、Valkenburg。自転車のプロロードレースの開催地としてもサイクリストに有名なこの街に2019年4月、「SHIMANO EXPERIENCE CENTER」がオープンしました。施設内は自転車部品、釣具、ロウイングと、シマノの事業領域すべてを集約。豊富な展示とバーチャルディスプレイやシミュレーターを備え、牧歌的で美しい周辺環境の中、実体験を通じてシマノ製品に直接触れ、最新の技術を体験できる場を提供します。ラウンジやワークショップエリアでは、ビジネス関係者や地域の学校、サイクリングクラブなどの団体にイベントを行う機会を提供するとともに、子ども向けのさまざまなイベントを主催。多くの人々に自転車、釣り、ロウイングの楽しさを訴求し、訪れるたびに新たな発見や体験を提供し続ける場所を目指しています。



屋外イベント



ワークショップ



バイクワールド



フィッシングリバー

05

自転車博物館サイクルセンター

豊かな自転車文化の創造を目指して。

「自転車博物館サイクルセンター」は、(公財)シマノ・サイクル開発センターが1992年4月、大阪府堺市で開館した日本で唯一の登録自転車専門博物館です。鉄砲鍛冶の技と伝統をベースに発展してきた堺の自転車産業と、自転車の誕生・発展の歴史を映像や実車展示で紹介。自転車のしぐみを体験的に学べる展示や、子どもから大人までを対象にした体験教室、講座、サイクリング企画などを通じて、その魅力と文化を発信しています。

- 1F 約200台の自転車が並ぶ公開収蔵庫や、自転車に関する書籍を並べた図書室などがあります。
- 2F 1818年のクラシック自転車(レプリカ)から最新の五輪出場車まで50台を展示。
- 3F プレーキや変速機、発電機などの仕組みを実際に触って学ぶことができる「自転車の仕組みと安全」。正しい乗り方や楽しみ方を知ることができる「自転車ライフの提案」といったコーナー。



こども絵画コンクール



自転車安全教室



レース・イベントの主催・協賛

レース本場の欧米からアジアや中南米まで、世界各地で自転車や釣りのレース・トーナメント・イベントを主催、また協賛しています。

自転車イベント

-  (オランダ)
サイクリング体験イベントを開催 ❶
..... '20年スタート
-  (アメリカ)
サズデーナイトマウンテンバイクライド ❷
..... '17年スタート
-  (アメリカ)
バーチャルメディアイベント ❸
..... '20年スタート
-  (アメリカ)
エヴァンス山での新製品発表会 ❹
..... '20年スタート
-  (アメリカ)
ウイリー(後輪走行)チャレンジ ❺
..... '20年スタート
-  (アメリカ)
Tour of Inspirationを制作 ❻
..... '20年スタート
-  (トルコ)
ロックダウン期間中のアートコンテスト ❼
..... '20年スタート
-  (アメリカ)
地下鉄道ライドをサポート ❽
..... '20年スタート
-  (トルコ)
UCI(国際自転車競技連合)マウンテン
バイクマラソン世界選手権大会のサポート ❾
..... '03年スタート
-  (チェコ)
マウンテンバイクワールドカップのサポート ❿
..... '96年スタート
-  (スイス)
エンデューロワールドシリーズのサポート ⓫
..... '03年スタート



-  (イタリア)
ロード世界選手権のサポート ❶
..... '96年スタート
-  (イタリア)
ジロ・デ・イタリアのサポート ❷
..... '14年スタート
-  (オーストリア)
マウンテンバイク世界選手権のサポート ❸
..... '96年スタート
-  (シンガポール)
TSG Shimano
Fellowship Rideのサポート
..... '18年スタート
-  (日本)
第26回日本トライアスロン選手権の
サポート ❹
..... '20年スタート
-  (フランス)
Mountain Bikers
Foundationのサポート
..... '17年スタート
-  (フランス)
FDJ Nouvelle Aquitaine
Futuroscopeのサポート
..... '16年スタート



釣りイベント

-  (オランダ)
お年寄りと子どもたちのための
釣りイベントを開催 ❶
..... '20年スタート
-  (カナダ)
ファミリー・アイスフィッシング・デー ❷
..... '19年スタート
-  (イギリス)
Northern Angling showと
Big one Stoneleighに出展 ❸
..... '92年スタート



利用環境の改善と保全

—— 自然環境、生活環境、製品利用環境の改善と保全への協力

地球環境、それはアウトドア・スポーツを楽しむためのフィールドです。その保全のためにたゆまぬ努力を続けることは、当社にとって当然であり、基本的な命題です。製造過程において最大限環境負荷を抑えるため、様々な設備改善・革新につねに取り組むとともに、海岸や河川といったフィールドの清掃や環境保全活動にも積極的に参加しています。今回は、シマノ 100周年を機にスタートした「シマノ・トリコロール・プロジェクト」の取り組みを中心に紹介します。

シマノ・トリコロール・プロジェクト

—— 3色ラインに込めたシマノの想い

2015年のパリ会議におけるSDGs採択など、国際的に持続可能な開発に対する機運が高まる中、シマノとしても、世界が目指すサステナブルな社会の創造に貢献するため、「シマノ・トリコロール・プロジェクト」を立ち上げました。従来取り組んできたReduce (CO₂と使い捨てプラスチックの発生抑制)、Reuse (水の循環利用の促進)、Recycle (バッテリーの再資源利用)の3Rをさらに加速させるとともに、今後、より幅広い活動を展開してまいります。シマノトリコロールライン(3色ライン)は、100周年を機に新たに採用したシマノコーポレートブランドロゴに配したもので^{*P3参照}、大自然そのものを象徴しています。ライトグリーンは大地を、ブルーは空を、そしてディープブルーは海を意味し、持続可能な社会の創造に取り組むを続けるシマノの強い意志を世界に示すものです。「シマノ・トリコロール・プロジェクト」はこのシマノの企業姿勢と理念に基づき、新たな想いを込めてスタートしたものです。



世界の生産拠点を中心に、CO₂排出量削減・省エネルギー、使い捨てプラスチック使用量・取水量の削減により、環境にやさしいものづくりに取り組んでいます。



世界の生産拠点では、水資源の再利用を目指した活動に取り組んでいます。



写真：プレイスメディア

持続可能な環境づくりを目指して

地球環境の保全は世界の最重要課題であり、自然を楽しむ製品をつくるシマノにとっても、持続可能な社会の構築に寄与することは当然の使命と言えます。日常的にさまざまな環境活動を展開する一方、メーカーとしての本来の活動であるものづくりにおいても、製品そのものから包装や物流まで含めた総合的な取り組みを行っています。

Reduce

CO₂排出量削減・プラスチック使用量・取水量低減

■ CO₂排出量の削減

シマノでは省エネルギー（省エネ）を重要な課題の一つとしてとらえ、生産性とのバランスを考えたトータルなエネルギー効率を追求し、削減対策を実施しています。

■ ものづくりにおける環境負荷の低減

生産性とのバランスを考えたエネルギー効率の追求として、2013年にはSakai Intelligent Plantの真空浸炭炉を電力化。CO₂排出量の大幅な削減を実現しました。各地の工場でも同様の施策を展開してまいります。

また、生産設備の入れ替えによる効率化や省エネ化に注力するとともに、本社では「省エネ推進部会」を定期開催し、つねに各工程の成果や活動を共有するなど、省エネを強力に推進しています。

■ BCA GREEN MARK AWARDを受賞

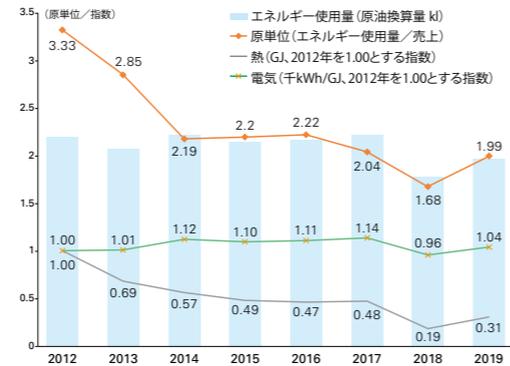
2021年以降に完成を予定しているシマノシンガポール新工場が、この度シンガポールのBCA (BUILDING AND CONSTRUCTION AUTHORITY) によるGREEN MARK AWARD (PLATINUM) を受賞しました。この受賞を、これまでシマノシンガポールが継続的に取り組んできた省エネルギー活動への評価と今後の展望への期待だと受け止め、引き続き環境にやさしい企業運営に努めてまいります。

LEDライトとヒートポンプの使用 '19年スタート

Shimano Experience Center は、CO₂排出量を削減するため、LEDライト、ヒートポンプ、およびスマートエネルギー管理システムを導入しています。



※集計範囲：国内外の工場すべて



※集計範囲：本社工場

■ 使い捨てプラスチック使用量の低減

シマノでは、使い捨てプラスチックの使用量を削減することにより、温室効果ガスや海洋プラスチックを低減し、環境にやさしいものづくりの実現を通じて低炭素社会の実現に貢献します。製品の価値を落とすことなく、まずは自らできることとして、なくせる部分はなくす、なくせない部分は減らす、または環境負荷の低い素材に置き換えることから始めています。将来的には、お客様や業界の共感を得ながら、より良い社会の実現への貢献を目指します。

● 釣具事業部の取り組み

釣具事業部では、主にロッドの梱包で使用されるプラスチックの削減に取り組んでいます。2010年頃から取り組みをはじめ、2020年にはさらにカテゴリーごとに異なるユーザー様の嗜好を分析し、紙ケースなどへの転換をさらに推進しています。また、リールやラインなどのギア製品でも同様に、梱包材のプラスチック使用量低減に努めています。



● バイシクルコンポーネンツ事業部の取り組み

バイシクルコンポーネンツ事業部では、企画、デザイン、購買、製造など、世界中の幅広い部署で一丸となり、プラスチック使用量の低減に取り組んでいます。各完製品の梱包時に使用するスモールパーツや、小さな部品の梱包など、使用量の最も大きいところから順に見直しを始め、2020年夏よりプラスチック使用の廃止や素材の置き換えを進めています。2021年からは、各工場での削減活動の数値管理を徹底するとともに、完成車メーカー様などによる自転車の組立時の利便性にも配慮し、さらなる推進に努めてまいります。

また、自転車販売店様の店頭でユーザー様にご購入いただく製品に関しては、シマノブランドのイメージを損ねることなく、サステナビリティに配慮したパッケージの使用に努めてまいります。

慣習的に同梱していた無駄なものの廃止



工夫することでプラスチック削減



〈プラスチック使用量の削減に向けた具体的な活動〉

- 梱包資材のプラスチック廃止または削減、紙への置き換え
- 再生紙の積極的な利用
- 印刷量の低減による、インク使用量の削減
- 梱包の見直しによる、小型化
- リサイクルフレンドリーな梱包



■ 海外拠点の取り組み

PEARL IZUMI

製品を限られた数にまとめて包み、従来より小さなポリ袋に入れて出荷する新しい方法を開発中です。開発初期段階で、ポリ袋50%もの削減が可能であると見込んでいます。

Innovative Textiles

製品リニューアルの際にパッケージをプラスチック製の窓のないデザインに変更しました。これにより、プラスチック使用量約8.6t以上の削減が可能であると見込んでいます。

■ 物流部門からのアプローチ

2017年、シマノセールス内に新設された臨海ロジスティクスセンターが稼働。本社と二本立てであった物流機能が集約されたのを機に、リサイクル活動も本格化しました。20年間にわたって続けてきた使用済み段ボールの回収は、当施設の開設でリサイクル量を数値化できるようになり、より効率的な対応が可能となりました。また、船便で使用する木材パレットは回収して再利用しており、回収率は平均90%を達成。緩衝材として用いるプラスチックも薄膜化などで大幅な削減を実現しました。なお、海外の各拠点においてもこれらと同様の取り組みが推進されています。

シマノシンガポール

2019年に、工場から廃棄されるペットボトルとポリ袋の廃棄を推定168kg削減しました。2020年2月からは、プラスチック削減のフェーズ1を開始。カフェテリアで果物などを入れるポリ袋を廃止し、イベントや会議室の飲料水はウォーターディスペンサーに変更しました。これにより、2020年は前年比43.5%のプラスチック廃棄量削減を見込んでいます。今後は、食堂のテイクアウトや市販飲料のプラスチックをなくすフェーズ2を開始し、より積極的な活動に取り組んでまいります。



■ 取水量の低減

シマノでは、2020年から国内外全生産拠点の取水量を見える化し、その低減に向けて積極的に取り組んでいます。

Innovative Textiles

'20年スタート

機械部品を洗浄する際に使用する水量を減らすため、蒸気ボイラーを設置しました。超音波タンクを使った洗浄効果により、さらに洗浄に必要な化学薬品を削減しています。水が持つこする力を利用して汚染物質を分解する仕組みです。



※集計範囲：国内外の工場すべて



水資源の再利用

■ 工場排水の再利用

シマノの生産拠点では、環境負荷を低減する排水処理システムの実現のみならず、そこで処理された水を再利用するための取り組みを行っています。

● 本社工場

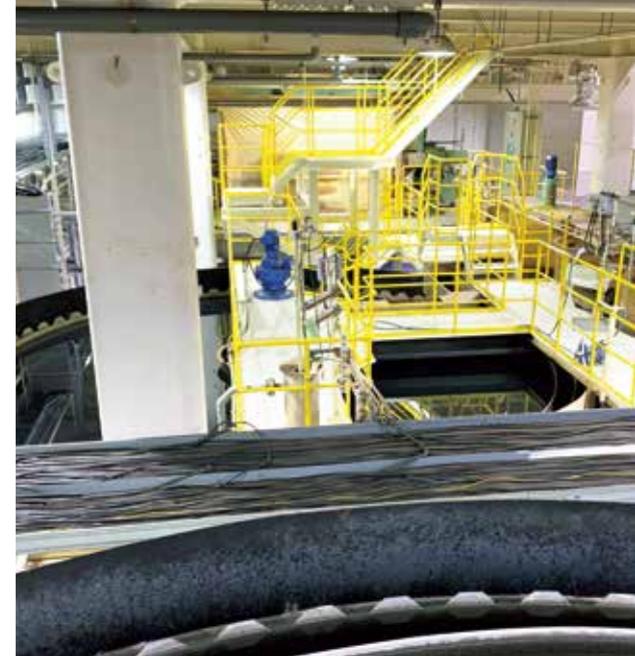
'14年スタート

法令遵守はもとより、それよりも厳しい独自の基準を設定し、適切な排水処理を行っています。旧工場と比べて年間排水量約3割減を達成するとともに、その約3~4割を、工場内で再利用しています。

シマノバタム

'20年スタート

2020年8月に、熱処理やスプレー塗装などの工程で発生する、現在の排水処理場では処理できない廃水を、バイオ処理するための研究を始めました。処理した廃水は、国の水質基準に適合していることが確認された後タンクに回収され、その後冷却塔に使用することで、節水にも貢献します。



身近な環境に対する取り組み

〈植樹活動〉

植樹活動

'20年スタート

シマノ連雲港の約80名の従業員が、中雲の農用山林に植樹をしました。

植栽の廃棄物を堆肥にリサイクル

'20年スタート

シマノシンガポールでは、植栽の廃棄物を収集して小さく裁断し、6~8週間かけて堆肥にします。こうしてできた堆肥を植え込みや樹木の根元に入れることで、土壌に栄養を与え、植物の生育や表土の質をよくすることに役立ちます。



〈清掃活動〉

 **環境保護のため海岸の清掃活動 '20年スタート**
シマノ連雲港の約100名の従業員が、連雲港の海岸を清掃しました。



 **台北大安海岸清掃活動 '20年スタート**
シマノ台湾は2020年から海岸の清掃活動を開始しました。従業員とその家族が参加して台中の大安海岸を清掃し、海洋ゴミの削減に貢献しました。合計170kgのゴミを収集しました。今後も自然環境を改善するため、こうした清掃活動を毎年継続していきます。

〈環境負荷の低減〉

 **休憩室とオフィスでリサイクルを実施 '15年スタート**
Innovative Textiles, Inc.の全ての休憩室には、従業員が再利用可能なものを入れる容器を設置しています。

 **アセトンのリサイクルを実施 '19年スタート**
Innovative Textiles, Inc.では、染料のアセトン成分を蒸留除去する工業用溶剤でスクラップ染料を処理しています。

 **使用済みコーヒーカプセルを回収・リサイクル '19年スタート**

Lazerは使用済みのコーヒーカプセルを回収し、リサイクルのためサプライヤーに返却することを始めました。

 **トータルリサイクルプログラム '19年スタート**
シマノシンガポールは、リサイクル収集センターを設置しました。工場からの廃棄物は、一般、金属、カートン、紙、プラスチック、食品廃棄物、電子廃棄物などのカテゴリーに分類されます。すべての廃棄物は、基準のチェックや、3Rに対する意識向上のため毎日記録されます。

 **排水処理による廃棄物保管量の削減 '20年スタート**
シマノ天津では、化学反応による二次処理や、濾過装置の設置、水処理装置の改質により、排水処理によって発生する廃棄物の保管量の削減に努めています。

 **排水処理の確認項目の強化 '20年スタート**
シマノカンボジアでは、2020年に廃水を処理する際の確認項目数を増やし、より安全性の高い排水処理の実現に向けて取り組んでいます。



 **雨流水の濾過処理 '12年スタート**
PEARL IZUMIでは、7エーカー（約28,000㎡）の敷地に9つの濾過槽を持ち、建物外部、敷地、駐車場からのすべての雨流水を集めて、7種類の砂や土で濾過し、地下水として戻しています。これにより、雨流水に含まれる汚染物質の除去と、地下水の涵養に寄与します。



シマノグリーンプラン '04年スタート

当社では2004年以来、環境負荷の低い製品づくりを行うための指針として、シマノグリーンプラン (SGP) を策定し、協力会社と協働してその遵守に取り組んでいます。

■ 環境負荷・健康負荷の低減

SGPは当社製品を構成する原材料・部品・製品に含まれる化学物質の規制値を明確にし、協力会社にも周知徹底することで、より環境負荷・健康負荷の少ない製品と安心を世界中のお客様にお届けすることを目的とした調達基準です。年々厳しくなる国内外の法規制や顧客要求に応じてSGPを改訂し、協力会社へ理解と協力を要請するとともに、社内の分析機器や外部分析機関の活用により製品の適合確認を行い、お客様に信頼される製品づくりを進めています。



■ 法規制遵守への取り組み

2020年も法規制への対応に向けて取り組みを進めてきました。

- 新たな法規制を取り入れたSGP改訂版を発行
- 国内および海外SGPコミッティーメンバーと情報共有し、連携して対応
- 出張規制がある中でも、情報量を維持するためリモートセミナーを積極的に活用



海外SGPコミッティーメンバーとのオンライン会議の様子

■ 化学物質問い合わせ対応

環境や健康への意識の高まりとともに、EUのREACH規則^{*1}、POPs規則^{*2}、RoHS指令^{*3}などの各国法規制の遵守や、お客様である完成車メーカー様の自主基準への適合を要求されることも増えています。当社では、お客様からの各種問い合わせを受け付け、SGP遵守状況と照合し、その結果を回答文書や適合宣言書にまとめ提供しています。

- *1：化学品の登録、評価、認可及び制限に関する規則
- *2：残留性有機汚染物質に関する規則
- *3：電子機器における特定有害物質の使用制限に関する指令

■ 企業価値を高める活動へ

要求が複雑化する法規制に迅速に対応するためには、これまで蓄積した情報を短時間で的確に抽出することが不可欠と考えています。事務的負荷軽減を含めシステム導入による効率的な情報コミュニケーションの実現に向けた活動に取り組んでいます。今後もサプライチェーンにおける製品含有化学物質管理を強化し、環境や健康に配慮した製品づくりを継続して推し進め、企業価値の向上を目指します。

信頼の構築

地域社会に企業市民として
参加し協働する

安全で楽しい自転車利用を目指して

子どもたちのための サイクリング体験プログラム '20年スタート

Shimano Experience Centerは地元自治体と協力して、9～12歳の子どもたちを対象としたサイクリング体験プログラムを開発しました。理論と実習、両方の要素を組み合わせたプログラムを通じ、健康で楽しく、安全な自転車の乗り方を子どもたちに教えます。



MTBトレイルづくりに協力 '18年スタート

PEARL IZUMIの従業員は毎年ボランティアで、トレイルの建設と維持に協力しています。これは、サイクリングコミュニティに直接役立つだけでなく、従業員のチームワークづくりにも非常に有用です。2020年は、コロラド州ブラックホークのメリーランドマウンテンに新しいマウンテンバイクトレイルを建設するのを手伝いました。



地域社会とのコミュニケーションを密にし、企業市民として共存・共栄を図ることは、当社の理想とする企業姿勢です。日本はもとより、世界各地に拠点を置く地域社会の一員として、地域と一体となって取り組める活動を積極的に行っています。

全世界に広がるチームシマノの拠点は独自に考え、信頼を育んでいくための活動を継続して毎年地道に行っています。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、従来と同様の活動が難しい状況下にあっても、サポートを必要としている方々のお役に立てるよう今後も私たちにできることを行ってまいります。

自転車空気入れステーション '18年スタート

2020年は新型コロナウイルスの感染防止のため、交通安全公園でのイベントは大幅に減少しましたが、シマノシンガポールでは、自転車の空気入れを定期的に掃除や手入れをして、自転車の空気入れステーションを引き続き維持管理していきます。

子どもたちの教育支援

学生インターンシッププログラム '14年スタート

Innovative Textiles, Inc.は、コロラド・メサ大学と提携して、人事、工学、IT、会計・財務を専攻する学生にインターンシッププログラムを提供しています。

大学生を会社と工場見学に招待 '14年スタート

Innovative Textiles, Inc.は、コロラド・メサ大学との提携関係をさらに強化するため、同大学の学生を会社見学と工場見学ツアーに招待します。

高校生の職業見習いプログラム '19年スタート

Innovative Textiles, Inc.は、地元の学区の職業教育プログラムに協力して、高校生に物流技術者と保守技術者の見習いプログラムを提供しています。

寄付活動

病院にLazerのゴーグルを寄付 '18年スタート

新型コロナウイルスの最初の感染拡大後、医療機関ではマスクや防護服などの医薬品の不足に直面しました。これに対して、Lazerはアントワープの3つの病院に自社製品のゴーグル200個を寄贈しました。

障がい者支援団体に寄付 '20年スタート

シマノチェコは体の不自由な人たちを支援する慈善団体であるColliersrdcemに寄付をしました。この寄付は体の不自由な人たちの運動機能回復を支えるトレーナーの訓練に活用されています。

団体献血

シマノ本社では2020年も2度の団体献血を実施しました。新型コロナウイルス感染拡大により、献血に協力する団体が減り、血液不足に陥っている中、計127名の従業員が協力しました。



日本万国博覧会への寄付活動 '20年スタート

シマノ本社は、2025年に大阪市で開催を予定している日本万国博覧会（大阪・関西万博）に、地域企業として計3億円を寄付します。持続可能な社会を目指す一員として、いのち輝く未来社会のデザインの実現を支援します。

慈善団体に洗面用具を寄付 '20年スタート

シマノオセアニアでは、従業員全員が自分の食料品を買う際に、シャンプー、歯磨き粉、石けんなどの洗面用具を余分に購入し、ドメスティックバイオレンスにより住む家がなくなった女性や子どもたちに洗面用具のギフトバッグを提供する慈善団体The Beauty Bankに寄付しました。



Nobel Gift 活動に参加 '15年スタート

シマノポーランドの従業員は、クリスマスの時期に、恵まれない人たちが孤独を感じないように、少しでも喜びと明るさをもたらすため寄付や贈りものをするポーランド固有のNobel Giftという慈善活動に継続的に参加しています。

ダイジェスト・サイエンス財団への寄付 '10年スタート

シマノフランスでは、テクニカルサポートチームがさまざまな自転車イベントや展示会に参加して、修理や整備を行い、お客様からいただいた代金の2倍の額を、年末に消化器疾患を研究する財団に寄付しています。

地元孤児院への寄付活動 '14年スタート

シマノカンボジアでは、地元コンポンスプー州の孤児院と研修機関に毎月1トンの米を継続して寄贈しています。

企業市民として

たつの市社会福祉協議会 '20年スタート

毎年、兵庫県揖保川でシマノ本社が開催するシマノジャパンカップ船セミファイナル西日本大会で選手が釣った鮎を、たつの市に寄贈しています。このたび、社会福祉法人たつの市社会福祉協議会の設立15周年を記念する「福祉のつどい」の場で、社会福祉事業進展に貢献したことにより表彰を受けました。

恵まれない子どもたちや 孤独なお年寄りを訪問 '20年スタート

シマノ連雲港の従業員約30人が、連雲港の市街地にある施設を訪問し、子どもたちやお年寄りと交流しました。

パンデミック時における 救援物資配布 '20年スタート

シマノフィリピンは2020年5月、バタンガス州サント・トーマス市で救援物資を配布しました。パンデミックで世界中が危機に直面する困難な時期ですが、企業市民として、地域コミュニティの支援に力を入れています。



社会活動報告書を読んで

2020年は新型コロナウイルスのパンデミックにより激震の歳となった。だがその中でシマノは好業績を達成した。これはコロナ禍の様々な制限の中で、人々が自然とのふれ合いを求め、彼らのニーズやウォンツに応えた製品をシマノがオファーし続けた成果であろう。シマノは今年3月に創業100周年の節目を迎えた。いま世界が直面している歴史的パラダイム転換と期せずして時宜を一にしているように思う。

今回の社会活動報告書で目に入るのは、新しいSHIMANOのロゴタイプだ。かつては社会や文化活動に限り使用していた三色のトリコロールラインを配したロゴをシマノコーポレートブランドロゴと位置付けた。トリコロールは大自然の象徴で、シマノの会社使命「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」という気概をシンボル化したものである。SDGs(持続的可能な開発目標)を含め、環境に前向きに取り組む姿勢と解釈できる。

活動報告は4ジャンルでくくった。コロナ禍で活動はやや減ったが内容を焦点化している。<企業価値の向上を目指して>の自転車部品事業では、電動バイクが普及し軽量でパワーアップした「EP8」シリーズでアシスト率を向上させた。マウンテンバイク用コンポーネンツ「SHIMANO DEORE」シリーズではユーザーが11速/12速も選べるようにした。いずれもユーザー・オペレーション起点で開発された製品と考えられる。釣り具事業では、代表的なバーサタイルベイトリールをモデルチェンジ、よりコンパクトで強度あるリールはテクノロジーと感性の一体化で評判が良い。各国のスタイルに合うラインアップを図り、グローバルスタンダードをコンセプトとしたシマノらしさと言えるだろう。

シマノを支える人づくりでは、本社で各種研修・通信教育に加え、創業100周年に向けた経営史、文化創造の取り組みなどの動画を制作した。各国拠点での研修や教育支援も活発で、チームシマノを育成している。近年の災害多発に備え、日本はじめアジアやオセアニア地域での防災・防火、避難、応急処置等の訓練は人を守るため不可欠である。

コンプライアンス促進への取り組みでは、企業市民としてすでに2013年「コンプライアンスガイドライン」を策定、何度か改訂を試み2019年以来クラウド型eラーニングシステムを導入した。定期的に社員の遵法精神と企業人の良識向上に努めているのがわかる。安全・品質についてのコンプライアンスは、安全道場、品質道場のブースを本社に設け、過去の重大事故や品質問題からの教訓を展示して学習する本気度が伝わってくる。

感染症対策としては「covid-19対策マニュアル」を早期に制定、在宅勤務制度を導入した。政府の緊急事態宣言を受け、緊急対策本部の設置、感染者発生時の初動、利害関係者への情報発信など危機管理でありBCM(事業継続管理)としても重要だ。感染症危機管理をする企業が少ない中でシマノの対応は先んじており、さらに精度をあげてほしい。

今後重要性を増すのがサイバー・ウィルス対策である。ランサムウェアには「予防」「対応力」「警戒心」の三位一体で取り組む。情報セキュリティ規程の改訂と情報セキュリティガバナンス推進体制の整備など、チームシマノとしての備えもできているようだ。但し常に未知のものが出現するので、セキュリティとして監視、更新、新たな訓練や対策を怠ってはならない。ただ近年増加しているネット上での情報漏洩、炎上等へのソフト対策についても提示してもらいたかった。DX(デジタルトランスフォーメーション)について、部門横断的プロジェクトで進めており2021年半ばの電子化達成は早い対応だろう。

コロナ禍対策として自転車通勤を推奨、ヘルメット手当や自転車購入に補助金支給があり制度整備は手厚い。2020年、国交省からシマノ本社・シマノセールスが「自転車通勤推進企業」宣言企業として認定されたのは社会課題解決型企業として矚目されているからだと思う。

<よろこびの高揚>では「新しい自転車文化・釣り文化の創造を目指して」と題し、“価値創造企業”としてテーマ別に示した。ここでの価値は顧客の楽しみとよろこびを意味するのだろう。自転車、ロウイング、釣りの楽しみ方を伝える場をつくり、文化拠点づくりを展開している。特に日本唯一の登録自転車専門博物館を堺市に設立しているのは社会的、歴史的にも意義深いのももっと広く情報発信を望みたい。

<利用環境の改善と保全>では従来からのReduce、Reuse、Recycleをさらに加速させ「シマノ・トリコロール・プロジェクト」をスタートさせた。CO₂排出量は国内外ともに減少傾向で、自転車部品もプラスチックの使用廃止や素材の置き換えを進め、各工場は生産性とのバランスを考慮して削減の数値管理で実効性をあげている。排水処理では各国・各地域の法規制・ガイドラインを遵守し、環境負荷を軽減、使用水のリサイクルなど水資源利用を実践している。シマングリーンプラン(SGP)は化学物質の規制値を明確化、協力会社にも周知して環境や健康負荷の低減を図る。年々法規制が厳しくなる中、各国の規制を遵守、顧客からの照会に対応する回答文書や適合宣言書を提供するなど、ビジネスへの誠実さを知ることができ、環境対策への積極さが読み取れる。

<信頼の構築>はコロナ禍の中で企業市民として出来ることを世界各地で地道に実施しているのが印象的だ。子供とのサイクリング体験、大学生のインターンシップ、医療機関へのマスク・防護服等の寄贈や団体献血、大阪万博への寄付など、世界各地での貢献活動はまさに信頼のリレーションシップづくりと言える。

本報告書での一貫した軸は「人と自然のふれあいの中で新しい価値の創造」というミッションであり、そこから読み取れるのはSDGsのコンセプトである。全体としてシマノの活動が社会に訴求するのは、人々のウェルビーイングライフ(well-being life)ではないか、またチームシマノのまとまりを感じとれるのは、ディーセント(decent)な組織文化があるからではないか。創業100周年を契機にチームシマノのベクトルがグローバルな価値創造企業として躍動することを期待したい。



千葉商科大学名誉教授 一般社団法人日本経営管理学会代表理事・副会長 藤江 俊彦

チームシマノ社会活動方針

チームシマノは「よろこびの高揚」、「利用環境の改善と保全」、「信頼の構築」の3つを柱として、それぞれの社会活動方針に従って世界中で活動を推し進めてまいります。

またシマノでは、自らの事業に近い分野であること、そして地元への貢献であることを基本とし、身の丈にあった活動を地道に、継続的に行うことが大切であると考えています。



会社概要

社名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
本社住所	〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地
連絡先	総務部 TEL: 072-223-3210 企業文化コミュニケーション部 広報課 TEL: 072-223-3957
URL	www.shimano.com
創業	1921年2月(大正10年)
設立	1940年1月(昭和15年)
資本金	356億円
上場取引所	東証一部
従業員数	1,442人(単体) 12,244人(連結)
主な事業	自転車部品、釣具、ロウイング関連用品等の開発・製造・販売
連結対象子会社	51社



2020.12.31 現在



100th ANNIVERSARY
1921-2021

株式会社シマノ

〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地

企業文化コミュニケーション部 広報課

Phone: 072-223-3957

Fax : 072-223-6045